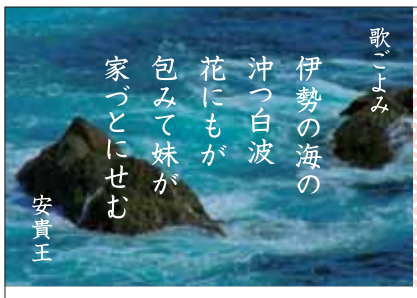

皇學館

学園報 第44号
発行・編集／学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大学　大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555　三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201（代表）　FAX:0596-27-1704
●高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
［高校］〒516-8577　TEL:0596-22-0205（代表）
［中学］〒516-8588　TEL:0596-23-1398（代表）

■注目記事

1面
平成25年度
皇學館大学入学式
2面
平成25年度
皇學館高校入学式
平成25年度
皇學館中学校入学式
3面
新任教職員紹介
4・5面
学外学習報告記
6面
対面式
新入生オリエンテーションほか
7面
教職員人事
8面
伊勢市と災害協定を締結

■連載

4面
研究室探訪 Vol.15　山田ゼミ
7面
卒業生奮闘中！
生田隆明さん（旧姓：澤田）
（国文学科第35期・平成12年卒）

高き志を胸に七七一名が入学

平成二十五年度皇學館大学入学式

四月三日、平成二十五年度皇學館大学入学式が記念講堂で行われた。満開の桜の下、文学部三四八名、教育学部二五四名、現代日本社会学部一二三名、大学院・専攻科・編入学生四十六名の計七七一名の新入生が新しい生活をスタートした。

次代の日本の担い手たちへ

午前十時に始まった式典では、開式の辞、国歌斉唱に続き、清水潔学長が令旨を奉読。続く式辞の中で清水学長は、人生における喜びは出会いであり、不思議な縁で結ばれたこの出会いに感謝したいと述べるとともに、ますます施設の拡充整備が進むキャンパスで思う存分勉学に励み、心身を鍛え、友情を育んで欲しいと述べた。また新入生に向けて二つの心得を述べた。一つは大学は高校のように知識を詰め込む場ではなく、自ら進んで問題を見つけ、課題を探求する「考える姿勢」が求められる場所であり、将来、どの職業でも最も必要とされる知性と倫理観を身につける場所であること。その中で「自分は何者か」という根本的な問いに向き合い、人生における自分自身の価値と使命を見つけて欲しいと語った。もう一つの心得として、本学設立の歴史に触れ、建学の精神にある「日本の文化や思想、父祖伝来の精神を明らかにし、それを継承実践して、文明の進展に寄与」することの大切さを熱く語った。

続いて佐古一洌理事長が登壇し、理事長自身が皇學館大学に入学した頃の思い出に触れながら「世の喧争を他所にして理想に進む若人」という精華寮寮歌の一節を引用し、「まずそれぞれが目指すところの学問に専念し、併せて心を練り身体も鍛えて下さい」とエールを送った。

また式典にご臨席頂いた鷹司尚武神宮大宮司は、本年十月に控えた第六十二回神宮式年遷宮に触れ、「二十年に一度新宮に大御神をお遷し申し上げることで国も人ともに若返り、元気になる」ことを願う神宮最大の祭典の年にめぐり合い、「それぞれの道の先達である諸先生方と交わり、薫陶を受け、学問の研鑽を深められますことは、この上ない幸せです」と新入生への期待を込めた祝辞を寄せられた。

清水学長と新入生代表

全員で神宮参拝

最後に新入生を代表して神道学科の原口寛基君、現代日本社会学科の田中美津子さん五名が堂々と宣誓文を読み上げ、七七一名が希望を胸に新しい生活の第一歩を刻んだ。

式典終了後、全新入生・教員並びに父母有志で神宮参拝を行い、神宮の大前に入学を奉告、誓いを新たにした。

新しい生活への期待を胸に

神道学科を代表して宣誓を読み上げた原口寛基君は福岡県・宗像高校の出身。「子供の頃から宗像大社に何度も参拝しており、将来は神職として宗像大社に奉職したい」と考えて本学を目指した。「伊勢は、好きだった小説『半分の月がのぼる空』が映画化された時の舞台になった場所でもあり、映画の舞台を回るのが楽しみ」と、新生活への期待を話してくれた。そして「これから、自分の好きな神道の勉強ができるのが楽しみ。学ぶことの一つひとつが楽しみです」と期待をのぞかせた。

一方、現代日本社会学科を代表して宣誓をしたのが田中美津子さん。将来、福祉の仕事に行きたくて本学の現代日本社会学科を選んだ彼女は「福祉の知識や技術を身につけるだけでなく、仕事で人と関わっていくために必要なコミュニケーション能力も身につけたい」と抱負を語った。また、式典の中で清水学長が述べた「大学とは自ら進んで問題を見つけ、課題を探求する場所」という言葉に感銘を受け、自分から積極的に行動を起こして人と関わっていこうと決めたことを打ち明けた。

神道学科
原口　寛基君

現代日本社会学科
田中美津子さん

明和町との包括連携協定

三月二十五日、本学と明和町が包括連携協定を結ぶための調印式が本学九号館大会議室で行われた。三重県多気郡明和町は伊勢市の北西に位置し、天皇に代わって伊勢の神宮に仕える斎王の居所、斎宮跡を擁するなど、神宮と深い関係を持つ町。これまでも本学と明和町は文化財や教育・福祉行政などで相互協力を行ってきた。今回の協定締結により、この関係をさらに強化すると同時に、地域の歴史や文化の振興、地域の活性化、教育の充実、福祉の推進などの相乗効果の創出をめざす。本協定に基づき、今日、多彩なプロジェクトの実施が計画されている。

握手を交わす中井明和町長（右）と清水学長

①発掘調査・出土品整理（遺跡の発掘調査・出土品の整理）
②古民家調査（街道沿いの古民家調査）
③イベント・伝統行事（斎王まつり・十五夜観月会）
④教育支援（教育アシスタント事業ほか）
⑤ガイドボランティア（斎宮ガイドなどとの連携）
⑥斎宮跡の植栽推進（斎宮跡を草花で彩る植栽活動）
⑦斎宮跡実物大復元建物の活用（斎宮跡実物大復元建物での歴史学習など）
⑧街道まちづくり（伊勢街道を活かしたまちづくり）
⑨文化観光まちづくり（斎宮跡や白砂青松の海岸などの観光資源の活用）
⑩図書館活動（図書館業務・お話会など）
⑪行政施策への提言（教育・福祉など）

春秋　倉田山

新入生を迎えたキャンパスも早やふた月を数える。みずみずしい若葉が色濃くなる季節である▼常緑樹も芽吹きの前には葉を落とす。年年歳歳、葉も同じからずだ。このころには、キャンパス内にも秋と並んで落葉がうず高く積もる。もちろん、松の葉のように一つの葉を何年も落とさない木もある。それゆえにめでたさの象徴となる▼そんな中にユズリハという木がある。新芽が出て、その成長を見届けてから、もとの葉を落とす。漢字で書けば譲葉。葉の交代を親子の関係に見たて縁起の良い木とされる▼こうした木々の様子を青青と表現する。現代では緑がその色の名だ。しかし、緑緑した木々とは言わない▼青は色としての歴史が長い。古くは灰色までも含んだという有名な説（佐竹昭広氏）もある。だから、青い、青さ、青みなどバリエーションも豊富だ▼しかし、色としての歴史の浅い緑は、緑い、緑さ、緑みとはいえない。緑はもともとみずみずしさを表すことばで緑の黒髪とかみどり児にその用法が残る▼青が親で、緑が子ども。ことばの移り変わりもユズリハに重なってみえる。そんな季節である。

三六二名が笑顔で入学

平成二十五年度皇學館高校入学式

待望の高校生活がスタート

四月九日、あたたかな日差しが降り注ぐ中、真新しい制服に身を包んだ三六二名の新入生を迎えて皇學館高校第五十一回入学式が執り行われた。式典では、国歌斉唱に続いて賀陽宮邦憲王殿下の令旨を奉読した。

次に中村貴史学校長は新一年生および保護者の方々に向かって祝辞を述べるとともに、令旨に触れて「難しい内容だったと思いますが、令旨の中には、皇學館教育のあるべき理想が述べられています。今日、ここに集まった君たちが、わが国の先人たちが築き、今日に続く正しい日本人としての生き方を身につけ、日本の社会と世界に対して貢献できる人間として君たちに成長してほしいという期待が強く込められています」と述べた。さらに「人間形成の上でとても大切なこれからの三年間に、君たちは正確で高度な知識を身につけ、健康な体を培い、何が正しくて何が間違っているかという判断力の基本を自分の中に築くことが求められます。私たち教員の一人ひとりは、君たちのこれからの三年間を支援するという覚悟のもとにいます」と厳しくかつあたたかい応援の言葉を贈った。最後に和漢朗詠集に収められた白居易の漢詩より「花を踏んでは、おなじく惜しむ少年の春」（野に出て花を踏みながら、短い青春の時を楽しもう）という一節を引用し、「爛漫の桜の花が、早く散り方を迎えるように、少年の日の三年間はあまりに早く過ぎてしまいます、再び返ることのない高校生時代を、悔いなく、懸命に駆け抜けてください」と期待を述べた。その後、新入生を代表して総代・脇友子さんが堂々と宣誓を行い、式は無事に終了した。

続いて新一年生は担任に引率されて、満開の桜の下を少し緊張した面持ちで各自の教室へ向かった。保護者とともに教室に入った新一年生は、初めての学級指導として事務的な手続きに関する説明を受けた後、皇學館高校の生徒としてこれから勉学に勤しむための心構えなどについて話を聞いた。この頃になると徐々に緊張もほぐれて教室には笑顔があふれ、三六二名はいよいよ待望の高校生活のスタートを切った。

新入生を代表して宣誓を行う脇さん

担任の先生とともに学級指導へ向かう生徒たち

皇學館高校に入学して

一年八組　青木 宏介君

皇學館高校に入学した今、まだ最高の高校生活を送っていると言う自信はありません。しかし、最高の高校生活に近づいていると自信を持って言うことはできます。

なぜなら、毎日が楽しく、クラスも日ごとににぎやかになっているからです。しかし、それだけでは最高の高校生活にはなりません。

オリエンテーションでは、さまざまな先生方からお話を聞きました。私は、最高の高校生活には「文武両道」が不可欠だと思っています。しかし、オリエンテーションで先生方がおっしゃった「文武両道」は、私が考えていたものよりもずっと強く深い意味がありました。ただ楽しいだけの生活ではなく、「文」にも「武」にもしっかり取り組んでいきたいと思います。

先生方のお話で最も印象に残ったのは、人権に関する話でした。「周りの友だちを大切にする」という、最も基本的で大切なお話を聞き、友だちがいるからこそ頑張ることができるのだと改めて感じました。

私は皇學館高校生としての自覚と誇りを持ち、新しい友だちとともに、先生方や先輩方の導きを頼りにしながら、これからの生活を充実したものにしていきたいと思います。そして、最高の高校生活にしようと思います。

一年六組　中西 真由さん

皇學館高校に入学して数週間が経ちました。最初は、新しい制服で高校生活を送れるという嬉しさに加えて、新しい友だちができるのか、また、勉強も難しくなり進み方も速くなると聞いていたので、勉強についていけるかという不安もありました。

しかしクラスの雰囲気はとても明るく、担任の先生もとても優しいので、このクラスのみんなとなら一年間楽しく過ごせそうでホッとしました。

オリエンテーションで、これからの勉強方法や学校生活の過ごし方などの話を聞き、今までとは違い、これからは自分自身で考えて行動しなければならないと思いました。

将来何をしたいか、何になりたいかという目標は、まだはっきりと決めていません。しかし毎日の授業を大切に真剣に取り組み、予習・復習を行い、漢字のテストや英単語などの朝テストもしっかり取り組み、目標ができた時のために、今できることを確実にしていきたいと思っています。

まだまだ慣れないことばかりで戸惑うこともありますが、高校三年間を振り返った時に後悔しないよう、自分を信じて何に対してもあきらめず最後までやり遂げて、有意義な学校生活を送りたいと思っています。

三十五期　四十六名が入学

平成二十五年度皇學館中学校入学式

飛躍の六年間の始まり

春らしい陽気の四月八日、セミナーホールで第三十五期生の入学式が行われた。緊張した面持ちで登校した新入生は校友会本部役員から新しい名札をつけてもらい、「ご入学おめでとうございます」と声をかけられると誇らしげに笑顔を見せた。

式典では、国歌斉唱、賀陽宮邦憲王殿下の令旨奉読に続き担任が一人ひとりを呼名し、全員が元気よく返事し起立した。

堂々と代表宣誓を読み上げる梶野君

四十六名の入学が許可された後、中村貴史学校長が「本学園の教育の方針は、日本に古くから伝わってきた神道に則って立てられています。神道が求める人間像は『清明正直』。毎日の生活を送る上で清潔に、明るく、正しく、率直に生きることが求められます。そうした一日一日の積み重ねの上に、諸君が独自のあり方で個性を創り上げ、大きく飛躍する六年間を送って欲しいと思います」と祝辞を述べた。その後は理事長の告辞、保護者会長祝辞と続き、在校生代表として書記の佐々木星さん（三A）が「私たちも皆さんと同じように期待と不安を持った一年生だったので、皆さんの気持ちがよく分かります。皆さんが安心して楽しく学校生活を過ごせるように協力していきたいと思います」と歓迎の言葉を述べ、新入生代表として梶野嘉人君（一B）が入学宣誓を堂々と読み上げた。

初めての学級指導ではそれまでの緊張もほぐれた様子で、真剣に話を聞き、元気に返事をするなど、前向きに取り組む様子が見られた。

新しい名札で新生活の始まり

皇學館中学校に入学して

一年A組　山本 あまなさん

皇學館に入学して二週間がたち、新しい学校生活にも少しずつ慣れてきました。

入学式の日は周りも知らない人ばかりで、とても緊張しました。みんなと友だちになれるかなという不安な気持ちでいっぱいでしたが、全然心配することはなく、すぐに友だちがたくさんできたので嬉しかったです。皇學館中学校は迷いそうなくらいに広くてびっくりしました。また、高校とつながっていることにも驚きました。

授業については教科ごとに先生が代わることが分かり、先生の名前を覚えるのが大変そうだなと思いました。でも、先生たちはとても楽しそうな方ばかりだったのですぐに覚えることができました。

授業は楽しく、とても分かりやすかったので、これから勉強を頑張って、友だちとも仲良く楽しく過ごせるようにしたいと思います。そして、これから自分の夢を見つけられるようになりたいです。そのために六年間頑張ります。

一年B組　音羽 拓実君

四月八日に入学して、晴れて皇學館中学校の一年生になりました。入学してから間もないですが、いろんなことがありました。

入学式が終わった後の三日間はオリエンテーションの期間でした。一番楽しかったのは、一日目の対面式と二日目の神宮参拝でした。

対面式では、クイズや三年生の先輩からの話がありました。特に「この先生だ〜れだ?」クイズがとても面白かったです。

二日目の神宮参拝では、伊勢神宮へ行く前に校長先生から参拝の作法を教えてもらいました。ここで初めて、二礼二拍手一礼という作法を知りました。

オリエンテーションが終わった後はいよいよ本格的な授業が始まりました。宿題をしっかりして忘れ物をしないように気をつけて悔いのない中学生活を送っていきたいです。

新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します。

❶出身地・経歴等　❷趣味・特技等　❸座右の銘　❹一言メッセージ

皇學館大学教職員

平成二十五年四月一日付

文学部教授（神道学科）
菅野（かんの） 覚明（かくみょう）

❶東京都◆東京大学文学部卒、同大学院満期退学。
❷坐禅、精進料理
❸如常
❹伊勢が世界文化の中心になれるように。

教育学部助手
加藤（かとう） 伊子（のぶこ）

❶名古屋短期大学卒。松阪市立中川幼稚園長、三重県国公立幼稚園長会長等を歴任
❷手芸（パッチワーク・カントリードール）、城めぐり
❸初志貫徹
❹これまでの経験を生かし、学生の皆さんを精一杯支援していきたい。

事務局神職養成部部長
山元（やまもと） 義清（よしきよ）

事務局総務部情報処理技術者
藤田（ふじた） 翼（つばさ）

❶滋賀県◆皇學館大学国文学科第九期卒。中学校・高校教諭、教育行政職員、神社庁参事
❷園芸、篆刻と前衛書道、短歌・俳句、陸上競技
❸温故知新、隗より始めよ
❹神風に誘われ来たる学舎の教え願うて運筆軽し――我一年生ご教示下さい。

事務局学生支援部事務嘱託
小川（おがわ） 祐子（ゆうこ）

❶三重県尾鷲市
❷フットサル、サイクリング
❸想いはかなう
❹一生懸命がんばりますので、よろしくお願い致します。

事務局学生支援部事務嘱託
辻井（つじい） 桃子（ももこ）

❶神奈川県横須賀市◆皇學館大学神道学科卒
❷鉄道旅行
❸足らぬ足らぬは工夫が足らぬ
❹建学の精神を胸に刻みながら、皇學館の為に力を尽くしていきたいと思います。

事務局財務部事務嘱託
藤原（ふじわら） 亜以（あい）

❶三重県鳥羽市
❷小学校から結婚するまでバレーボールをしていました
❸人事を尽くして天命を待つ
❹一生懸命やっていきます！少しでも貢献できればうれしいです。

事務局学生支援部教職アドバイザー（事務嘱託）
高山（たかやま） 智（さとる）

❶三重県伊勢市◆皇學館大学国文学科第十期卒
❷写真、俳句
❸教育のこつは、まかせることと教えること
❹教員生活三十八年を経て、再び倉田山の地で教育に携わることができ感激しています。

事務局学生支援部事務嘱託
辻井（つじい） 桃子（ももこ）

❶三重県伊勢市◆皇學館大学社会福祉学科第四十三期卒
❷買いもの、スポーツ観戦
❸一生懸命
❹素敵な学生生活を送っていただける様に日々頑張ります。

事務局学生支援部事務嘱託
畑（はた） 杏理（あんり）

平成二十五年三月一日付

❶三重県伊勢市
❷写真
❸Seize the day
❹以前教職支援担当でお世話になっていた畑です。一生懸命頑張ります。

高等学校常勤講師
内田（うちだ） 悠一（ゆういち）

皇學館高校教職員

平成二十五年四月一日付

❶中京大学心理学部心理学科卒
❷スポーツ観戦
❸辛抱・忍耐
❹生徒と共に、明るく楽しい学校生活を送りたいと思っています。

高等学校常勤講師
大賀（おおが） 清史（きよし）

❶山口県下関市◆愛知県内の県立高校に長年奉職
❷南極探検史と海上交通の研究がライフワークで「船長免状」を取ることが夢。古文書の解読
❸少欲知足と粗衣粗食
❹名誉ある本校の一員に加えて頂きました。人財の育成に尽力します。

高等学校常勤講師
中山（なかやま） 麻也子（まやこ）

❶三重大学教育学部卒。元公立中学校教員、元英会話講師
❷料理、愛犬とのふれあい
❸夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ
❹皇學館でお世話になるのは全く初めてになります。よろしくお願い致します。

高等学校常勤講師
富士井（ふじい） 美優（みゆう）

❶名古屋大学経済学部卒
❷ピアノ、弓道、射撃
❸為せば成る
❹精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

就職活動時期の激変に関係者が一丸で対応

皇學館大学の進路支援スケジュール

三分野の進路支援部署を設置

会社説明会の開始時期の後ろ倒しに関する政府からの要望を経団連が本年四月に受け入れたことにより、平成二十八年三月卒業生（現在の大学二年生）から就職活動時期の激変が予測される。本学では学生一人ひとりの夢や目標に応じてきめ細かい進路サポートを行うため、就職支援・教職支援・神職養成の三つの専門部署を設置。入学早々から就職意識を高めるための講演会やセミナー・ガイダンスを継続的に実施してきた（下表）。ほかにも名古屋の大手専門学校から講師を招聘してWスクールによる教員・公務員講座や、資格取得・語学講座など、多彩な特別講座を開講している。

関係者全員で学生を支援

本学の進路サポートの最大の特徴は、関係者全員が一丸となって学生を支援すること。専任の就職担当職員が各学科の就職委員と連携を取り、学生の詳細なプロフィールを把握すると同時に、地元企業を定期的に訪問して情報収集を行い、強力なネットワークを構築している。他にも現任の神職および学校長などの経験者による実践的なアドバイス、徹底した面接指導、資料室の開放など、万全の体制で学生を支援する。

また秋には保護者を対象とする就職講演会・説明会を開催。このように関係者全員が力を合わせ、厳しい就職環境の下でもすべての学生が社会人として最良のスタートを切れるよう支援していく。

高等学校常勤講師
横井（よこい） 正典（まさのり）

❶三重県
❷洋画を見ること
❸正しく生きる
❹高い志を持ちましょう。その実現の為に私は全力でお手伝いをします。

学校事務部学校事務室
事務嘱託
槙野（まきの） 貴行（たかゆき）

学校事務部学校事務室
事務嘱託
松尾（まつお） 麻衣（まい）

❶三重県伊勢市◆早稲田大学卒
❷バドミントン
❸継続は力なり
❹明るく元気に全力で頑張ります。よろしくお願いします。

❶三重県
❷音楽鑑賞
❸しあわせはいつもじぶんのこころがきめる
❹一つでも多くの事を学べるよう努力していきたいと思います。よろしくお願いします。

	1年次	2年次	3年次	4年次	その他
就職支援	●進路適性検査 ●進路適性検査結果説明会	●就職対策講座①「キャリアデザイン講座」 ●就職対策講座②「社会が求める人材とは1」 ●2年生個人面談 ●就職対策講座③「就職活動の心構え」 ●就職対策講座④「社会が求める人材とは2」 ●公務員採用試験説明会	●進路適性検査 ●進路適性検査結果説明会 ●就職対策講座①「企業の試験とは」 ●就職対策講座②「社会が求める力とは（インターンシップの活用）」 ●就職対策講座③「入社採用試験! 人事はココを見ています!」 ●就職対策講座④「『自己PR』とは何か（その1）」 ●就職対策講座⑤「『自己PR』とは何か（その2）」 ●就職対策講座⑥「『志望動機』とは何か（その1）」 ●就職ガイダンス「就職活動の流れ・進め方」 ●就職対策講座⑦「『志望動機』とは何か（その2）」 ●就職対策講座⑧「自己PR・志望動機【勝てる】伝え方」 ●就職対策講座⑨「社会人としてのマナー」 ●就職対策講座⑩「業界・仕事研究会」 ●就職対策講座⑪「面接対策」 ●3年生個人面談 ●学内合同企業説明会 ●面接・グループディスカッション練習会	●4年生個人面談 専門スタッフによる個人面談	●企業筆記試験対策模試 ●マスコミ就職対策講座 ●社会福祉士国家試験対策講座 ●社会福祉士国家試験模試・精神保健福祉士模試 ●スキルアップ講座（情報処理特別講座／英語特別講座／面接対策スピーチ講座） ●公務員試験対策講座 ●公務員試験対策模試 ●着こなし・メークアップ講座
教職支援	●学校ボランティア説明会 ●教採対策講座 ●個人面談 ●小学校免許取得希望者説明会	●学校ボランティア説明会 ●教育現場講演会 ●個人面談 ●幼稚園・保育所就職対策講座	●自己PR等対策講座 ●面接対策講座 ●個人面談 ●教育現場講演会 ●教採合格者報告会 ●個人面接・集団面接 ●名古屋大原学園教採対策講座 ●幼稚園・保育所就職対策講座	●OBによる模擬集団面接・討論 ●集団面接・討論 ●人権教育対策講座 ●三重県教採説明会 ●教育時事対策講座 ●個人面接・模擬授業 ●公立学校講師希望者説明会 ●幼稚園・保育所就職対策講座 ●幼稚園・保育所専門試験筆記対策講座 ●保育士就職対策模擬試験	●教採模擬試験 ●教採対策DVD講座 ●幼稚園・保育所教養試験筆記対策講座 ●公務員試験対策模試
神職養成	●就職指導説明会 ●神務基礎実習事前指導 ●指定実習ⅢA事前指導	●就職指導説明会 ●進路登録票作成指導 ●指定実習ⅢA事前指導 ●神社奉仕・参拝指導	●就職指導説明会 ●就職個別面接 ●指定実習Ⅱ（総合実習Ⅱ）事前指導・事前研修・事後研修 ●指定実習ⅢB事前指導 ●現任神職講話	●第1回就職指導説明会 ●第1回個別面接 ●第2回就職指導説明会 ●第2回個別面接 ●神社就職推薦 ●神宮実習・中央実習事前指導 ●就職関係書類作成指導 ●人事担当者・卒業生との懇談会 ●神社就職内定者指導	●面接実践試験対策 ●一般常識試験対策 ●神社の基礎知識対策

大学では一部のゼミで研究旅行が、専攻科では参拝見学が行われた。〝学問なき経験は、経験なき学問に勝る〟とイギリスのことわざにあるが、知識を伴った実体験は何にもまして貴重な学びの機会となるはず。以下に、参加した学生の感想を紹介する。

大学　ゼミ旅行

九州縦断・天孫降臨の地を巡る

神道学科４年　東 省利

私たち木村ゼミは「天孫降臨の地を巡る」という計画を立て、３月２３日から２６日にかけて九州を巡った。

初日は鹿児島神宮・霧島神宮に参拝。鹿児島神宮では拝殿の拝観を通じて江戸時代に薩摩藩が置かれていた状況・歴史を学んだ。霧島神宮は極彩色の竜柱が印象的で、神仏習合の名残が色濃く残っていた。２日目は鵜戸神宮・青島神社に参拝。その後、高千穂神社に古来より伝わる夜神楽を拝観し、神代の息吹を肌で感じた。夜には高千穂神社の新名祢宜様をお迎えして懇親会を開き、現場の声を伺いながら、奉職に向けて思いを新たにした。３日目は高千穂神社・天岩戸神社に参拝した後、阿蘇山と熊本城を見学。阿蘇山では大自然の雄大さに心を打たれ、熊本城では熊本の歴史や城の成り立ちを学んだ。最終日は宗像大社辺津宮に参拝し、神宝館を見学した。また、中津宮・沖津宮での奉仕の様子を伺い、お社を維持管理する大変さを学んだ。

高千穂神社にて

今回のゼミ旅行では、九州で独自に発展した民間信仰や神仏習合の名残などに触れると共に、現任神職のお話しを伺い、大学では学ぶことのできない貴重な経験ができた。

学んだことを現場で活かしたい

教育学科４年　成合 宏之

教育学科中松ゼミでは、３月４日から３月８日にかけて沖縄県の西表島を訪問した。西表島は自然保護区域に指定されており、高温多湿な特有の環境下で固有の動植物が数多く生息していた。

星砂の浜では、透き通るような海でシュノーケリングを体験したり、磯を散策したりする中で、ウツボやウミヘビ、色鮮やかな熱帯魚などの生物を間近で観察することができ、本土との生物相の違いに目を奪われた。民謡を聴きつつ水牛車で訪れた由布島では、オオゴマダラという日本最大の蝶を飼育している施設を見学し、沖縄ならではの文化や自然を堪能した。琉球大学の保有する広大な牧草地では、野生のアワヨトウや寄生蜂の採集を行った。普段のゼミ活動の中で人工飼育しているこれらの昆虫は身近な存在であるが、自然界ではなかなか見つけることができず、改めて生態系の複雑さや生物の多様性を実感する良い機会となった。

この研究旅行で得た経験や知識を日頃の研究に活かし、教育現場でもこの貴重な体験を子どもたちに伝えたい。

由布島にて

行動の指針を得る

現代日本社会学科４年　大橋 遼

私たち榎本・建部・山路ゼミは、２月２２日から２５日まで研究旅行として東日本大震災の被災地を訪れた。例年になく寒く、地元でも久しぶりの大雪という厳しい季節の旅行であった。仙台空港から目にした景色は私たちにとって衝撃的だった。海岸の近くにある空港近辺にはおよそ家宅とよばれるものがなく瓦礫や松ばかりだった。ガイドさんや語り部さんの話を聞いていくうちに目の前に広がる光景が段々と現実味を帯びてきて、テレビや新聞などでは感じられなかった複雑な“想い”をメンバー全員が持つことができた。その後現職の警察官の方や、医療・福祉の現場で働く方との対談の中で多くの学びを得ることができた、家族や友人の心配をしながらも職務を全うしなければならないということ、避難所では敬遠されてしまう障がい者の実情など、それぞれが知りたいことについて考えさせられる旅行であった。私たちもこの１年で卒業し社会へ出ていく。その中で私たちは何をもって行動すべきなのか、その指針を得ることができた。

●平成24年度　研究旅行日程一覧（2･3月）

学部		引率教員（敬称省略）	日程	目的地・方面
国内	文	木村徳宏	3/23（土）～3/26（火）	九州
	教育	山本智子	3/4（月）～3/7（木）	東京・千葉方面
		中條敦仁	3/4（月）～3/7（木）	福岡・大分・下関
		中松 豊	3/4（月）～3/8（金）	西表島
	現日	山路克文・建部久美子	2/22（金）～2/25（月）	東北
		守本友美	3/4（月）～3/8（金）	沖縄・石垣島
		板井正斉・榎本悠孝	3/9（土）～3/12（火）	北海道
海外	文	河野 訓・外山秀一	3/4（月）～3/9（土）	大韓民国
	教育	錦 かよ子・杉野裕子	3/3（日）～3/8（金）	ウィーン
		小孫康平・有門秀記・元塚敏彦	3/4（月）～3/8（金）	グアム
		加藤 茂外次・田口鉄久	3/5（火）～3/9（土）	フィリピン・セブ島
		豊住 誠・檜垣博子・吉田明弘	3/5（火）～3/9（土）	シンガポール
		深草正博・渡邉 毅・野々垣 明子	3/5（火）～3/9（土）	シンガポール
		叶 俊文・吉田直樹	3/6（水）～3/10（日）	フィリピン・セブ島
		中村哲夫・市田敏之	3/6（水）～3/10（日）	ハワイ
		小木曽 一之・片山靖富	3/7（木）～3/11（月）	パラオ

気仙沼災害ボランティア（ホタテの網掃除）

専攻科　参拝見学

「祭祀」を考えるきっかけに

神道学専攻科　武曽 洋暁

私達神道学専攻科 33 期は、5 月 11・12 日の両日、担任の加茂教授・神職養成室の石井先生の引率により、京都の神社を参拝見学した。11 日の朝、雨模様の中、本学を出発したが、京都に到着した頃には小雨となっていた。石清水八幡宮、北野天満宮、松尾大社にて正式参拝。12 日は晴天に恵まれ、八坂神社、吉田神社、下御霊神社にて正式参拝、そして京都御所を見学した。

４月に神道学専攻科へ入学し、講義や祭式により神道を学んでいるが、現任神職の方から各神社の由緒、社殿、御神徳について丁寧な説明を伺うことは、信仰の上に立脚している神社の実像を体感・理解する良い機会となった。

特に私が気になったことは、正式参拝を受けた際のことだ。基本はどの神社も御祈祷の作法は同じだが、細かい所で個々に特徴があるように思った。社殿の立地・構造上のことから、ある所では雨風や森林など自然を身近に感じながらの参拝、またある所では厳かな社殿の中での参拝であったり、立礼と坐礼の違い、舞や鈴払いなど、一部ではあるが、私達が学んでいく上でこのような違いにも注意を払う必要もあるのではないかと感じた。

京都の神社を見学しただけでもこのような違いがあることを考えると、どのような神社に奉職しても大丈夫なように基本を修め、どのようなことにも対応できるよう学ばねばならない。これから先も神道や神社の基礎を固めていく必要があり、この１年間で身に付ける努力をしていきたい。

今回の参拝見学で祭祀というものを改めて考えるきっかけになった。この１年で知識を深め将来的には神社界を引っ張っていける神職になりたいと思う。最後に、あたたかく迎えて頂き、熱心に御説明下さった各神社と神職の方々にお礼申し上げたい。

松尾大社にて

研究室探訪 vol.15

山田ゼミ
文学部
コミュニケーション学科

日常生活の中にも異文化は潜んでいます。

コミュニケーション学科の山田先生のゼミでは
「異文化」をテーマに、いつも活発な議論が行われます。
今回はそんな先生のゼミに伺い、いろんな話をお聞きしました。

山田 やす子教授（ドイツ語学・文学，女性学）

私のゼミのテーマは「異文化」と「異文化コミュニケーション」。毎週、たとえばエチオピアの幼い花嫁の話など、世界各国で日常的に行われる習慣や儀礼に関する映像を観たり資料を読んだりした後で、それについて自分がどう考えるかを全員で討論します。時には海外からのゲストを迎え、その国の生活や国民性などに関して話していただくことも。こうしてさまざまな異文化に触れることで、一つの事柄にも多様な見方があること、答えは常に一つとは限らないことを学生に知ってほしいと思っています。そしてもう一つ学生に伝えたいのは、海外だけが異文化ではないということ。同じ日本人でも、世代間や男女間で意識・常識のギャップはありますし、もっと身近なところでは同じ学生同士でも気が合う人・合わない人はいます。そういう「自分とは違う人」に出会った時にも、相手を積極的に認めるということ。その勇気を身につけることこそ、異文化を学ぶ上で最も大切なことだと思います。

学生コメント

公私ともにお世話になっています。
森下 菜々美さん　コミュニケーション学科４年

ゼミのテーマが「異文化」だけに、ゼミ生の卒業論文のテーマは実にバラエティ豊か。私は自分が興味のある「ミステリー」を卒論のテーマに選び、今、先生の指導を受けながら資料収集を進めています。他にもレポートの書き方や、履修方法など、ゼミを離れたプライベートなことでも、山田先生には面倒を見ていただいています。将来は、ゼミで学んだ「他人を認める勇気」を大切にしながら、多くの人と関わる仕事をしたいと思っています。

先生と学生の距離の近さが魅力です。
原田 真梨子さん　コミュニケーション学科４年

山田先生のゼミでは、さまざまな問題について全員が気兼ねなく討論できます。また、中国からの留学生が在籍しているため、日本とは異なる意味の言葉やジェスチャーといった異文化についても深く学ぶことができます。そして何といってもこのゼミの一番の魅力は、山田先生と学生の距離が近いこと。授業の空き時間には時々先生の研究室に顔を出し、お茶やお菓子をいただきながら、いろんな話をするのが楽しみです。

旅を通して成長
～学外学習報告記～

授業では学べない〝生きた学問〟に接してほしいと、４月から５月にかけて登山や遠足、ゼミ旅行などさまざまな学外活動が実施された。仲間とチームワークや親睦を深めたり、現地の人々との出会いや見聞を通して新しい価値観や文化を学んだり、生徒や学生たちはそれぞれに大きな刺激を受けたようだ。

中学校

フィールドワーク

青空の広がる暖かい日となった４月２６日、総合学習フィールドワークの一環として朝熊山登山が実施された。今年は新しい試みとして学年混成によってグループが編成され、上級生が下級生をリードする場面が見られるなどとても充実した活動となった。

目的地 ▸▸ **朝熊山**

挑戦することが大事

１年Ｂ組　奥村 遼平

僕は初めて朝熊山に登った。初めてなのでとても楽しみにしていた。

朝から良い天気でよかった。少し風はあったけど、登っているときは涼しく気持ちよかった。

それに先輩と一緒に登ったので、心強くもあった。先輩は自分のペースで行かずに、ゆっくりと僕たちに合わせてくれた。途中、足が疲れて痛くなったりもしたが、休憩をはさみながら何とか登ることができた。登っていくにつれて、山から見える景色がだんだんと変わっていくのを見て朝熊山に登っているという実感が湧いてきた。

頂上までみんな登りました！

家に帰ったら疲れがどっと出て、その日はご飯と入浴だけしたらすぐに寝てしまった。

今回初めて登山をしたが、思っていた通りとても大変で疲れた。でも大変さだけでなく、大きな達成感も得られて良かったと思う。何にでも挑戦することが大事だと思った。

来年は先輩たちを見習いたい

２年Ａ組　村瀬 右京

今年は１年生から３年生までＡ・Ｂの２チームに分かれて登った。登り口から４班に分かれて出発し、みんなで声を掛け合った。１年生も元気に登った。頂上ではみんなでお菓子交換をしたりして、仲良くなれた。初めて登った１年生は「疲れた～」など言っていたが、頂上からの景色を眺めると「きれい～」と笑顔になったので、僕も嬉しくなった。

帰りは奥村先生と天嵐君、浩之君、直弥君と一緒に先頭集団で下りた。走り出すと、スピードが出て驚いた。本当に楽しくて嬉しかった。前を行く奥村先生はとても格好良くて、すごいと思った。

今年のフィールドワークは去年より数倍楽しくて、気持ちよかった。来年は先輩たちのように後輩をしっかり見てあげながら、今年のように楽しくしたいと思う。

後輩から元気をもらう

３年Ｂ組　中川 栞菜

先日、朝熊山に登った。去年と違って縦割り班での行動で、自分一人で登るのもかなり苦しいのに、１年生を連れて歩くのは少し大変だった。私自身、最初こそ余裕を持って登っていたが、だんだんと体力がなくなってきて口数が減り、そのせいかテンションも下がってしまった。そんな時、ある１年生の子が顔を真っ赤にしながら辛そうに、それでも遅れをとらないようにと頑張って登っているのを見た。それを見たら自然と頑張らなくちゃ！という気持ちになってあとはほとんど気力で登り切った。

本来は先輩である私がその子に元気を与えるべきで、それこそが今回の総合フィールドワークの目的だったのだが、私は本当に後輩から元気をもらった。何かを与えるのは必ずしも年上ではないんだなと、そんなことを教えられたフィールドワークだった。

高校

遠足

４月２４日、皇學館高校で遠足が実施された。あいにくの雨模様だったが、生徒たちはそれぞれの行き先で満足した様子。また、時間を守りスムーズな集団行動を心がけるなど、遠足を単なるイベントではなく、自らの成長につなげる機会と捉えている姿勢がうかがえた。

目的地 ▸▸ **１年：太秦映画村**

過去とのつながりを実感

１年９組　荒木 美来

「行ってきまぁす！」かける言葉は同じだけれど、いつもとは違う朝。これから何が起こるのだろうとわくわくした思いを胸に抱き、バスへと向かう。

私たちは映画村で、江戸時代へとタイムスリップした。今回の遠足で一番心に残っているのは、辺り一面に広がるまるで時代劇のような世界だ。そこは一つの街となっていて、その中へ一歩足を踏み入れると、次のようなものがあった。

そろばん、水車、キーキーと音を立てるとても開けにくい引き出し。それらは実際の時代劇で使われたこともあるという。そのような小道具に触れることで、過去との繋がりを実感し、今と繋がっていくだろう未来を輝かしいものにしていかなければならない。未来の子どもたちに感動してもらえるような日本をつくりあげていきたい。そんなことを感じた遠足だった。

時代を超えて！？の共演

目的地 ▸▸ **２年：志摩スペイン村**

印象に残った闘牛コースターと壁画

２年３組　笹山 真彦

私は生まれて初めてスペイン村に行った。幼い頃からスペイン村の存在は知っていたが、行く機会がなかったので楽しみにしていた。しかし、当日は悪天候の影響で「ピレネー」などのジェットコースターが運行を中止していて、唯一それだけが残念だった。仕方がないので屋内の乗り物や、まだ雨の影響で止まっていない屋外の乗り物に乗って楽しんだ。とくに楽しかったのは「闘牛コースター」だ。コースターが発進してすぐに周りが暗闇に包まれ、徐々に坂を登り急スピードで坂を降りた時のスリルは最高だった。暗闇を駆け抜けるコースターの姿はまさしく闘牛さながらだった。乗り物以外にも心に残ったことがある。それは、スペインのアルタミラ（壁画）を再現した展示だ。アルタミラは牛などの動物が描かれており、とても石などで描いたとは思えないほど写実的で素晴らしかった。次は晴れた時にまた行きたい。

人気者と握手

目的地 ▸▸ **３年：鈴鹿サーキット**

楽しい思い出が増えた

３年７組　皿屋 真里

遠足の当日は雨で少し気分が落ち込んだが、鈴鹿サーキットに着くと、皆の願いが通じたのか雨は上がり、楽しめそうな気分になっていた。

しかし、ロッキーコースターというジェットコースターに３０分ほど待って乗った直後、また雨が降り出し、びしょ濡れになった。だが、久しぶりに乗ったジェットコースターは思ったより浮遊感があり、楽しかった。雨が顔面にあたって寒かったが……。

気の合った友達といっしょに

ほかにも、パワークリスタルハントという最近新しくできたシューティングゲームをした。要領がつかめず苦戦したが、３人で９万点ぐらい獲ることができ面白かった。

鈴鹿サーキットに来たら絶対カート系に乗ると決め込んでいた私にとって乗れなかったことは残念だったが、今振り返ると楽しい思い出が増えた良い遠足だったと思う。

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業 寄付金進捗状況

平成25年4月30日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	3	450,000	450,000
企業	42	4,240,000	4,200,000
一般（旧教職員・篤志家等）	18	575,000	575,000
同窓会会員	198	7,755,000	7,755,000
後援会賛助会員	75	1,235,000	1,235,000
本法人関係	126	3,735,000	3,735,000
合計	462	17,990,000	17,950,000

※注意事項
個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載をご希望されない方々につきましては、別記とさせていただきました。
■同窓会会員／１名

皇學館高等学校創立五十周年
皇學館中学校創立三十五周年記念事業

寄付者芳名

同周年記念事業は募財活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いており、四月三十日現在の募金状況は次の通りです。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともご賛同をお願い致します。

同窓会会員

●三重県

十万五千円　同窓会皇學館高校十五期七・八組一同様
十万円　駒田　具夫様
一万円　安藤　明様
一万円　保田　元史様

皇高 NEWS

学年の枠超え交流深める

●対面式

四月十日、新入生が二、三年生と初めて顔を合わせる対面式が行われた。最初は緊張していた新入生も「分からないことがあれば何でも聞いてください」という先輩の言葉に安心した様子で、これから始まる学校生活への希望と期待に胸を膨らませていた。以下に一年生と三年生の感想を紹介する。

理想とする姿に

一年八組　脇　知子

先日、私たちは高校生活への期待と不安を胸に皇學館高等学校に入学しました。私は入学式での宣誓と、先輩方との対面式での新入生代表挨拶を務めさせていただき、緊張の数日間を過ごしました。今は慣れない環境に少し戸惑いながら日々を過ごしています。

私は、吹奏楽部に憧れ入学を決意しました。部活動と勉強との両立が容易ではないことは十分理解しているつもりです。勉強のことや進路選択のこと、部活動のことなど、不安はたくさんあります。しかし不安を一つひとつ乗り越え、部活動にも勉強にも一生懸命取り組んでゆく姿こそが、先輩方が築き上げてこられた「皇學館高等学校生」のあるべき姿だと思います。その姿を理想とし、しっかりと目標を定め、目標達成のために努力していきます。そして三年の間にさまざまなことに挑戦し、自らの可能性を試していきたいと考えています。

この先、どんな新しい自分に会えるのか、楽しみでもあります。

皇學館高等学校生としてまだまだ未熟な私たちですが、一生懸命頑張ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

新入生代表として挨拶をする脇さん

積極的に取り組んで

三年六組　西山　知穂

一年生が入学し、二、三年生との対面式が四月十日に行われました。総務委員長の山口嵐君が挨拶した際は姿勢をピンと伸ばし、しっかりと耳を傾けていた一年生たち。「生活が大幅に変わる」と山口君が語ると不安混じりの緊張した表情を浮かべましたが、「困ったことがあれば、先輩や先生方に頼ってください」という言葉に少し緊張が解けたようで、期待と安心に満ちた表情になりました。

これから一年生は勉強に部活、対人関係など忙しくなり、時には悩むこともあると思います。その時は山口君が言っていたように、私たち二、三年生の先輩や先生方を頼ってください。良いアドバイスが返ってくると思います。自分たちにも言えるのですが、高校生活は何事も前向きに取り組むことが大切だと思うので、積極的に行動していってほしいと願っています。

「困った時は先輩や先生に相談して」と語る総務委員長の山口君

約百名が参加、進路を一緒に考える

●保護者会総会等を開催

平成二十五年度の保護者会総会、後援会総会、講演会、中学・高校合同懇親会が五月十一日に開催され、雨が降る中を多数の保護者に参加いただいた。

いずれの総会においても平成二十四年度事業・決算報告後、平成二十五年度事業計画・予算案審議、役員改選と進行し、賛成多数で次々と可決、承認された。

続いて「お子様の進路選択について大事にしていただきたいこと」と題し、（株）リクルート進路事業部の沖花祐美子氏が講演。氏が現在の進路状況や高校での勉強のつまずきポイントを解説すると、あちこちでメモを取る保護者の姿が見受けられた。さらに話は就職活動にも及び、現代の企業がコミニュケーション能力や主体性、チャレンジ精神、さらに混沌とした時代だからこそ自分で考え行動できる人材を求めていること、また、保護者側の姿勢として子どもと進路についてもっと話す機会を設ける一方、子どもの意向を尊重して見守る必要があると説明。多くの出席者が納得したように頷いていた。

最後に、皇學館大学倉陵会館に会場を移し、保護者同士や教職員との交流を図るべく合同懇親会を開催。参加者はずらりと並んだ料理に舌鼓を打ちながら、笑い声の混じる賑やかな時間を過ごした。そして最後は後援会新会長の津谷剛氏の一本締めで幕を閉じた。

懇親会は終始和やかな雰囲気に包まれ、親交を深める貴重な機会となった

皇中 NEWS

学校生活の心得を確認

●新入生オリエンテーション

四月九日から十一日までの三日間、新入生対象のオリエンテーションが行われた。

初日の対面式ではあたたかい拍手の中、一年生が入場。最初は緊張した様子だったが、先輩たちの明るい雰囲気に笑顔を見せ、「先生だ～れだ？」クイズでは手を挙げて答えるなど積極的な面を見せた。

二日目は皇學館、神宮作法の心得と作法について学び、神宮参拝に行った。初めての参拝に緊張した様子だったが、終わった後は清々しい表情を見せた。

三日目は学校・学習・生活について教務や訓育の先生からのお話をしっかりと聞いていた。最後には、先輩たちが春休みから準備していた部活紹介。自分のクラブの良さを一生懸命アピールし、一年生も楽しく参加していた。オリエンテーションで学んだことを活かし、ぜひ文武両道、いろいろな面で活躍できる学校生活を送ってもらいたい。

部活動の内容を紹介

皇學館中学の入試が変わります！

平成２６年度入学試験のうち、１月１２日に実施されるＡ日程の入試方法と入試科目が変更になります。募集要項については皇學館中学校ホームページ、または下記までお問い合わせください。

Change 1

Ａ日程に「専願」を新設！

「専願」の入試科目は「国･算」（各５０分１５０点）の２科目と面接（約１０分）のみ。ただし、受験は本校のみを希望し、合格した場合は必ず入学することとします。

Change 2

Ａ日程「一般」の入試科目が４科目に！

「一般」の入試科目が「国･算･理･社」（国･算は各５０分１５０点、理･社は各４０分１００点）の４科目に変更されました。

問合せ　皇學館中学校　０５９６－２３－１３９８
第１・３・５土曜に学校見学ができます（祝日を除く）。

教職員人事

平成二十五年四月一日付　〔　〕内は旧職名

大学

●採用

文学部教授　菅野　覚明
文学部教授（特別教授）　半田　美永
文学部教授（特命教授）　安江　和宣
教育学部助手　加藤　伊子
神職養成部長　山元　義清
学生支援部栄養士　中村　多恵
総務部情報処理技術者　藤田　翼
学生支援部管理栄養士（事務嘱託）　伊藤　素子
学生支援部事務嘱託　小川　祐子
財務部事務嘱託　後藤　一美
財務部事務嘱託　藤原　亜以
学生支援部事務嘱託　勢力　章子
学生支援部教職アドバイザー（事務嘱託）　高山　智
学生支援部事務嘱託　辻井　桃子

●任用更新

教育学部教授（特別教授）　市川　千秋
現代日本社会学部教授（特命教授）　宮川　泰夫

●昇格

文学部教授　齋藤　平〔文学部准教授〕
文学部教授　松本　丘〔文学部准教授〕
現代日本社会学部教授　建部久美子〔現代日本社会学部准教授〕
文学部准教授　前田　至剛〔文学部講師〕
教育学部准教授　市田　敏之〔教育学部助教〕
教育学部准教授　中條　敦仁〔教育学部助教〕
企画部部長　木村　成吾〔企画部調査役〕
法人本部出版部係長　石橋真由美〔法人本部出版部主任〕
総務部書記　森谷　香里〔総務部書記補〕
大学院文学研究科教授（特命教授）　毛利　正守
教育学部准教授（特命准教授）　長尾　陽子
文学部助教　木村　徳宏
文学部助教　岡野　裕行

●配置換

文学部教授　加茂　正典〔神道研究所教授〕
文学部教授　櫻井　治男〔社会福祉学部教授〕
研究開発推進センター教授　荊木　美行〔史料編纂所教授〕
研究開発推進センター教授（佐川記念神道博物館学芸員）　岡田　芳幸〔佐川記念神道博物館教授・学芸員〕
研究開発推進センター准教授　遠藤　慶太〔史料編纂所准教授〕
教育学部助教　佐藤　武尊〔文学部助教〕
現代日本社会学部助教　上野　文枝〔社会福祉学部助教〕
研究開発推進センター助手　佐野　真人〔神道研究所助手〕
研究開発推進センター助教（佐川記念神道博物館学芸員）　千枝　大志〔佐川記念神道博物館助教・学芸員〕
研究開発推進センター助教　山口　剛史〔神道研究所助手〕
研究開発推進センター助手　前田　和宏〔企画部部長〕
研究開発推進センター事務嘱託　長谷川寛子〔佐川記念神道博物館事務嘱託〕
学生支援部主任　玉田　功〔総務部主任〕
財務部主任　大井　恵子〔社会福祉学部地域福祉文化研究所主任〕

●役職

文学部学部長　深津　睦夫
教育学部学部長　深草　正博
現代日本社会学部学部長　宮川　泰夫
学生部長　田浦　雅徳
文学部神道学科主任　白山芳太郎
文学部国史学科主任　大島　信生
文学部国文学科主任　上野　秀治
文学部コミュニケーション学科主任　外山　秀一
教育学部教育学科主任　小孫　康平
現代日本社会学部現代日本社会学科主任　新田　均
附属図書館館長　髙倉　一紀
情報処理センター長　河野　訓
教育開発センター長　齋藤　平
研究開発推進センター長　岡野　友彦
研究開発推進センター副センター長　荊木　美行
学長補佐　白山芳太郎〔文学部教授〕
外山　秀一〔文学部教授〕
中村　哲夫〔教育学部教授〕
新田　均〔現代日本社会学部教授〕
学生寮寮主任　中川　照将

●兼務

総務部情報担当課長　前田　和宏
総務部係長　石橋真由美
研究開発推進センター書記　森谷　香里

高校・中学校

●採用

皇學館高等学校常勤講師　内田　悠一
皇學館高等学校常勤講師　大賀　清史
皇學館高等学校常勤講師　中山麻也子
皇學館高等学校常勤講師　富士井美優
皇學館高等学校常勤講師　横井　正典

●昇格

皇學館高等学校教諭　日々野公輝〔皇學館高等学校常勤講師〕
皇學館高等学校教諭　田中　克征〔皇學館高等学校常勤講師〕
皇學館高等学校養護教諭　小林　美紀〔皇學館高等学校養護助教諭〕
学校事務部学校事務室事務嘱託　槙野　貴行
学校事務部学校事務室事務嘱託　松尾　麻衣

創立百三十周年・再興五十周年記念事業　募金終了に伴うお礼

平成十五年十一月から開始いたしました皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業の募金活動は皆様のご支援ご協力により、平成二十五年三月末日をもって無事終了することができました。

これまでに、募集の趣旨にご賛同いただき、多くの方々からご厚志を頂戴しましたこと、誠にありがたく衷心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

このたびご寄付を賜りました方々へは、「寄付者芳名録」がまとまり次第、改めてご報告申し上げます。

今後とも、皆様方のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

学校法人皇學館理事長　佐古　一洌
皇學館大学学長　清水　潔

募金目標額　8億円
募金実績額　11億1699万9千円
募金達成率　139%

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付金実績報告　平成25年4月30日現在

区分	申込件数	申込金額（円）	納入金額（円）
宗教界	634	778,377,000	772,747,000
館友	736	82,534,000	80,399,000
篤志家	57	40,040,000	39,920,000
萼の会	1,892	101,271,000	101,271,000
企業	110	63,770,000	62,530,000
本法人関係	260	60,372,000	60,132,000
合計	3,689	1,126,364,000	1,116,999,000

平成二十五年度特別招聘教授

元国土交通省　事務次官　青山　俊樹氏
茶道裏千家淡交会　参事　淺沼　博氏
財団法人合気会理事長　合気道道主　植芝　守央氏
弓馬術礼法小笠原流　三十一世宗家　小笠原清忠氏
東海旅客鉄道株式会社　相談役　須田　寛氏
鉄道情報システム　常務監査役　田尾　憲男氏
雅楽師・元宮内庁式部職楽部楽師　東儀　秀樹氏
京都産業大学名誉教授　モラロジー研究所教授　所　功氏
お茶の水女子大学　名誉教授・数学者・作家　藤原　正彦氏

数字でみる皇學館　これは何の数字？

434,431

皇學館の蔵書数

学園内の大学・高校・中学の合計蔵書数（平成25年3月31日現在）。大学附属図書館の内訳は社会科学関連の書籍が23%と最多で、以下、歴史（17%）、文学（13%）、哲学（13%）と続きます。中には康永2年（1343年）に書かれた「東寺縁起」という歴史的価値の高い資料も収蔵されています。膨大な書籍はデータベース整備が行われており、利用者は簡単に検索・利用が可能となっています。

卒業生奮闘中！

生田 隆明さん　三重県生涯学習センター
文学部国文学科第35期（平成12年3月）卒／旧姓：澤田

私は現在、三重県総合文化センター内の「三重県生涯学習センター」に勤務しています。みなさんの中には『生涯学習』と聞くと「高齢者のためのもの」とか「自分の趣味で行うもの」といったイメージを持たれる人も多いと思います。確かにそれも生涯学習の一面ではありますが、最近では単に学ぶだけでなく、学んだことを地域社会に還元する活動（「地域づくり」や「ボランティア」など）全般を「生涯学習」と称するようになりました。私は前述の三重県生涯学習センターで、あらゆる世代の方々のニーズに沿った「学び」の情報や機会を提供させていただいています。

そんな三重県生涯学習センターには、全国に誇る二つの事業があります。一つは、皇學館大学をはじめとした県内全ての高等教育機関十四校と進めているコンソーシアム事業「みえアカデミックセミナー」。そしてもう一つが、県内の実演家・演奏家を学校の教育現場に派遣する「文化体験パートナーシップ活動推進事業」。私はそのどちらにもグループをまとめる責任者として深く関わらせていただいています。卒業当時は、自分が大学の地域貢献分野の支援や、学校教育とアート（芸術文化）の橋渡しをするなどとは想像もしていませんでした。しかし在学中に培った先生方や同輩との人脈が、熟成期間（？）を経て、今とても役立っていることを実感しています。

人生における「学び」は、大学で終わるのではありません。私自身、社会教育主事資格を二十八歳の時に取得し、現在もワークショップデザイナーの資格を取得するために大阪大学へ通い学んでいる最中です。大学生活を、夢への助走期間として捉え、卒業後も変わらず研鑽を続けていただきたいと思います。

各種競技大会で皇學館大生が大活躍!!

期待のアスリートが続々誕生

近年、本学の体育系クラブが各種の競技大会でめざましい成績を残している。五月の東海学生陸上競技対校選手権大会では、駅伝競走部の若菜純一君が一五〇〇メートル走で四分を切る好タイムで優勝。九月の日本学生陸上競技対校選手権大会の出場権を手にした。六月に行われた三重県柔道体重選手権大会でも、柔道部の寒川綾子さんが52kg以下級で見事優勝。国体三重県代表チームの強化選手に選抜された。また排球部の山岡憲二君も同三重県代表チームの強化選手に選ばれた。今後は、九月に東京で行われる第六十八回国民体育大会（スポーツ祭東京）への出場をめざす。三人とも本学のみならず三重県が注目するアスリートだけに、今後の活躍を大いに期待したい。

左より清水学長、山岡君（教育・4年）、田浦先生（排球部部長）

若菜君（コミ・3年）

寒川さん（教育・1年）

伊勢市と災害協定を締結

津波災害時、本学第一グラウンドを緊急避難施設として提供

三月二十六日、本学園は伊勢市との間に「津波発生時における緊急避難施設としての使用に関する協定」を締結した。今世紀前半に起こる可能性が高いといわれる東海地震、東南海・南海地震が発生した場合、伊勢市内では沿岸部を中心に浸水被害が広範囲に及ぶと予測されている。今回の伊勢市との協定により、標高二十五メートルの本学第一グラウンド（一万三九六三平方メートル）が、津波警報の発表から警報解除までの緊急時における地域住民などの一次避難場所として使用されることになった。なお、今回の津波緊急避難場所とは緊急時に津波から一時的に避難するための施設であり、警報解除後も避難者が生活する「避難生活施設」とは異なる。

鈴木伊勢市長（右）、井面常務理事

伊勢市役所で行われた締結式には、鈴木健一伊勢市長をはじめ、本学園からは井面護常務理事及び水本昌克総務部長が出席して協定書に調印した。

今後は各施設への誘導看板の設置や「広報いせ」、伊勢市のホームページ、防災マップなどで情報発信をすると同時に、ステッカーを利用して地域住民への周知を図る予定だ。

また今回の締結では本学園の他にもショッピングセンター伊勢ララパーク（小木町）とイオン伊勢店（楠部町）が一次避難場所として指定され、本学園をはじめとする民間施設と伊勢市が同種の協定を締結した施設は十一カ所となった。

●伊勢市との連携事業（平成25年度以降実施予定。検討中のものを含む。）

課名	内容	期間	担当者
総務課	伊勢市公平委員会委員（委員長）	平成23年12月26日～平成27年12月25日	深津 睦夫 教授
	伊勢市情報公開・個人情報保護審査会委員	平成25年4月1日～平成27年3月31日	山田 やす子 教授 富永 健 教授
情報調査室	行政改革推進委員会委員	平成24年4月1日～平成26年3月31日	筒井 琢磨 教授 富永 健 教授
市民交流課	伊勢市男女共同参画審議会委員（会長）	平成25年6月1日～平成27年5月31日	建部 久美子 教授
	いせ市民活動センター運営委員会（会長）	平成25年4月1日～平成26年3月31日	板井 正斉 准教授
環境課	環境ミーティング	平成20年度～	企画部
	電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会	平成24年8月16日～平成27年	田浦 雅徳 教授
清掃課	廃棄物減量等推進審議会（会長）	平成24年11月20日～平成26年3月31日	中松 豊 准教授
健康課	健康づくりのためのウォーキングの効果とルート検証	平成25年4月1日～平成26年3月31日	小木曽 一之 教授
	伊勢市民健康会議委員	平成25年4月1日～平成26年3月31日	
生活支援課	「伊勢市地域福祉計画・伊勢市地域福祉活動計画」の周知・進行管理等	平成23年11月24日～平成26年3月31日	山路 克文 教授
	伊勢市地域福祉計画策定推進委員会委員	平成25年5月頃～平成26年3月31日	
障がい福祉課	伊勢市地域自立支援協議会委員	平成24年4月1日～平成26年3月31日	山路 克文 教授
	伊勢市障害者虐待防止委員会（会長）	平成24年10月1日～平成26年3月31日	
観光企画課	外国人短期留学生招聘及び情報発信事業	平成25年4月～平成26年3月	国際交流担当他
観光事業課	お白石持ち行事受入の市民ボランティアの協力依頼	平成25年4月～平成25年9月	学生支援部
	花火大会ボランティアの協力依頼	平成25年6月～平成25年7月	
都市計画課	都市計画審議会委員〔都市計画・環境部門〕	平成24年6月1日～平成26年5月31日	宮川 泰夫 教授
学校教育課	教育支援ボランティア	平成16年9月～	教職支援担当 実習支援担当
生涯学習スポーツ課	伊勢市スポーツ推進審議会（会長）	平成25年4月1日～平成27年3月31日	小木曽 一之 教授
	お伊勢さんマラソンにおける学生スタッフ協力	平成25年12月8日	
	体育経営管理学における授業の実施	未定	中村 哲夫 教授
	小俣公民館講座講師	平成25年5月25日～平成26年3月	岡田 登 教授
	学生ボランティア第1回オリエンテーション講師	平成25年5月25日	板井 正斉准教授
	図書館協議会委員 子ども読書活動推進会議委員	平成25年4月1日～平成26年3月31日	高倉 一紀 教授
文化振興課	伊勢まるごと博物館ネットワーク会議会員（副会長）	平成24年4月1日～平成26年3月31日	岡田 芳幸 教授
	伊勢まるごと博物館ネットワーク会議会員	平成24年4月1日～平成26年3月31日	千枝 大志 助教
	史跡旧豊宮崎文庫保存管理活用計画策定委員会委員（副委員長）	平成23年10月20日～平成26年3月31日	上野 秀治 教授
	史跡旧豊宮崎文庫保存整備指導委員会委員（副委員長）	平成23年10月20日～平成26年3月31日	

イベント情報（7～8月）

7月

6 土 月例文化講座 431教室
ひとごとですか、こころの病気とこころの障害
榎本 悠孝（現代日本社会学部准教授）

13 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む（中巻）「垂仁天皇下」
白山 芳太郎（文学部教授）
「伊勢の遷宮と心の蘇り」－建築ご神宝と遷宮諸祭－
「用材を伐り出す御杣山」
白山 芳太郎（文学部教授）

13 土 みえアカデミックセミナー2013 三重県文化会館レセプションルーム
「近現代の伊勢神宮」
松本 丘（文学部教授）
「節旗（せっき・せちのはた）」考
－古代の大嘗祭御禊行幸－
加茂 正典（文学部教授）

20 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
「神道と仏教」－神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離－
「白山における神仏習合と神仏分離」
河野 訓（文学部教授）

27 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「遷宮シリーズ③」
近世・近代の神宮式年遷宮 －古儀復興と発展－
松本 丘（文学部教授）

8月

3 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座 万葉の歌人 －大伴坂上郎女－
大島 信生（文学部教授）

10 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む（中巻）「景行天皇上」
白山 芳太郎（文学部教授）
「伊勢の遷宮と心の蘇り」－建築ご神宝と遷宮諸祭－
「遷宮諸祭」
白山 芳太郎（文学部教授）

24 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
「神道と仏教」－神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離－
「琵琶湖・竹生島における神仏習合と神仏分離」
河野 訓（文学部教授）

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認いただきますようお願いいたします。
●共催講座（近鉄文化サロン阿倍野）のみ有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野（0120-106-718）へお願いいたします。
●その他お問い合わせは、皇學館大学企画部（TEL 0596-22-6496）へお願いいたします。

編集後記

すでにお気付きの方もいらっしゃるかも知れませんが、今号より皇學館学園報をリニューアルしました。フォントや紙面のレイアウト、色使いなどが今までとは若干違っています。新学園報のコンセプトは、建学の精神を礎に、学術研究、教育・人材育成、地域貢献という本学にとって重要な三本柱の活動をバランスよく伝えていくことです。また、学園報で掲載した情報を公式HPでも公開し、より積極的な大学広報につなげて行く予定です。さらに、「数字でみる皇學館」などの新企画も設け、今まで以上に読みやすく、親しみやすい紙面づくりを心掛けてまいります。皆様方の率直なご意見・ご感想をお待ちしております。〔企画部〕

全日本柔道選手権大会に皇學館高校OBが二名出場

二名同時出場は快挙

平成二十五年全日本柔道選手権大会が四月二十九日に日本武道館で開催され、皇學館高校卒業生の稲垣亮さん（三重県警察）と中川裕喜さん（セントコー）が出場した。本大会は体重による階級別ではなく体重無差別で行われる、まさに「柔能く剛を制す」大会で、日本柔道界ではオリンピック・世界選手権と並ぶ柔道三冠の一つに数えられる。

三月三日に行われた各地区の予選会で、稲垣さんは東海地区を代表して全日本柔道選手権に何度も出場した経験を持つベテラン勢を退け、初優勝を果たし念願の出場権を手にした。一方の中川さんは最大の激戦区である東京予選で順当に強豪を破り、五位入賞で全日本選手権への出場を決めた。この大会に本校の卒業生が出場するのは山本良選手（昭和五十八年度卒：現警察大学校准教授／同大会に過去三度出場し、平成八年大会で五位入賞）以来で、二名の同時進出は快挙と言える。

日本武道館で行われた大会では、稲垣さんは一回戦で奥嶋聡選手（山口県警察）を退けるも、今大会準優勝の原沢久喜選手（日本大学）に苦杯を喫した。中川さんは初戦で今井敏博選手（新潟総合警備保障）に敗れて涙を飲んだ。両名とも今回が初出場であり、課題が見えた大会であった。今後、両名が日本の柔道を支えてくれることを期待したい。

試合を終えて

稲垣 亮さん
平成18年度卒

全日本選手権出場は皇學館高校の頃からの夢でした。無差別級なので普段より体重を増やして臨みましたが、相手が強過ぎました。敗因は体重と筋力不足でした。しかし予選を勝ち抜いたことで自信もつきましたから、次回はベスト8を目標に頑張ります。次の目標は、今秋の第六十八回国民体育大会での優勝です。

中川 裕喜さん
平成20年度卒

初出場なので、自分らしい柔道をしようと考えていました。試合中は攻めの柔道に徹しましたが、最後まで攻め切れませんでした。体重が軽いことは不利だとは思いません。むしろ軽量の自分でも勝てるのが柔道の魅力です。今の課題は、攻撃のパターンを増やすこと。そして将来はオリンピック出場をめざします。

こころ小路 komichi ツアー 2013
オープンキャンパス
参加無料 予約不要

「学び」体験DAY
7月14日(日) 8月18日(日)
11:00～16:00
皇學館大学の学びの雰囲気を体験できる一日。
◇模擬講義（7月）
◇体験型プログラム
◇AO入試対策講義（8月）
◇保護者向け説明会（8月）
◇おかげ横丁ツアー（8月）
◇学食体験
◇キャンパスツアー
◇個別相談コーナー
◇入試説明会

「学校」見学DAY
7月13日(土) 13:00～16:00

「大学祭」同時開催DAY
11月上旬 11:00～16:00

「入試」直前対策DAY
12月7日(土) 13:00～16:00

日本の原点を知る 皇學館大学
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL. 0596-22-6316（入試担当）
皇学館 検索